



参加した児童全員は、約5kgもある消火活動服を着て消防士を体感

百聞は一見にしかず

松尾小学校3年生の東消防署見学

東消防署には、1月・2月の間に10校の小学3年生が訪れますが、1月23日は、松尾小3年生50人が訪れました。社会科授業の一環で「くらしをまもる」を学ぶため、毎年消防署見学を行っているものです。「教室で教科書だけで勉強するのと、実際に見るとではまったく感じ方が違いますから」と話す担任の石井先生。児童たちは、消防車に積んであるものや、通報システムの説明に目を輝かせて聞き入り、「気づいたことメモ」に書き留めていきました。

署長は、「署の仕事は、火事を消す、病人を助ける、そして、一番大事なことは、火事をおこさせないことです」と呼びかけました。

もうすぐ春が来ますよ

食虫植物群落の野焼き

島地区にある食虫植物群落で、1月25日に野焼きが行われました。前日までの雨で枯葉が乾くか心配されましたが、当日は朝から寒中晴れ。午後1時、風向きを考え入口付近から順に点火されると、約31,000㎡の群落地はバチバチと音をたてて燃え広がり、30分ほどで一面炭色になりました。野焼きは島地区「愛土会」が中心となり「食虫植物群落を守る会」と合同で毎年行っています。目的は帰化植物の除去と新芽の生える場所をつくること。そして、食虫植物は栄養の無い所に育つので、植物が残って腐葉土になることを防ぐためだそうです。「花が一面を覆いつくす春が来ると思うとワクワクします」と守る会の長谷川さんは話していました。



火は、北風によって、勢いよく燃え広がった
※この野焼きは揚煙行為を届け出て行っています



講演する六波羅陽子先生

仕事や家庭で活かす

自分も相手も大切にする会話術

アサーティブネス講座

1月17日、成東文化会館のぎくプラザを会場に人権教育の一環として、NPO法人アサーティブジャパン認定トレーナーの六波羅陽子先生を講師に迎え、アサーティブネス講座を開催しました。参加者22人は、終始笑みがこぼれる雰囲気の中、自分のコミュニケーションパターンを知り、自分の気持ちや要求を相手を傷つけることなく効果的に伝えるコミュニケーションの方法を学びました。

終了後は「大変良かったです。私は自己主張がないとよく言われるので、これを機に少しずつ実行していきたいと思えます」との感想がありました。